

備後国府跡 大特集



鳥居地区 (府川町)

府中市文化センターや市指定重要文化財の日吉神社府川石鳥居のある場所が鳥居地区です。人形(古代のまじない札)や権介(国司の役職名)と書かれた土器が見つかっていました。

平成28年の発掘で、古代山陽道と国府の中核部へ向かう道の分岐点を確認され、全国的にも注目されました。国府所在地の推定にもつながる重要な発見であることから、史跡公園として整備されます。

説明看板あり



宍語橋 (元町)

奈良時代に都から派遣された若い役人が、この橋の近くで美しい乙女に一目ぼれし、恋文を送りました。二人はその後、恋に落ち、たびたび会っては、橋の近くで愛をささやきあっていました。

ある日、若い役人に、都へ帰るように命令があり、役人は悩みましたが、帰ることを決意し、橋で乙女と待ち合わせ、共に都へと帰っていきました。二人のささやきあった姿から、宍語橋と呼ばれるようになったという話があります。



史跡指定までは長い道のりだね

金龍寺東地区 (元町)

金龍寺東地区も、史跡指定地の1つです。

石積みの基壇上に建つ格式の高い礎石建物や庭園の池の跡が確認されました。

まだこれらの施設の性格は明らかになっていませんが、西隣の伝吉田寺とともに、国府の宗教施設として機能していたか、饗宴施設としての機能などが推測されています。国府の重要施設の1つとして調査の進展が期待されます。

説明看板あり



国史跡指定場所

「府中」という市名の由来であり、まちの原点といえる『備後国府跡』が平成28年10月3日、府中市で初めて、国の史跡に指定されました。

備後国府とは、「備後国(現在の広島県東部)」を治めるために置かれた役所のことです。奈良時代から平安時代の約500年間、地域の政治・経済・文化の中心として機能しました。これまでの発掘調査により、元町を中心に国府の重要施設が配置され、「国府のまち」を形成していたことが明らかになりました。今も、市内各所に当時の名残をとどめています。発掘調査で分かったこととそのあゆみをご紹介します。

問い合わせ先 教育委員会総務課 (☎43-7180)



国府復元衣装



国史跡指定場所

柱の跡がしっかり残ってるね



市内で行ったいにしえマイスターの講習

備後国府発掘約30年のあゆみ

- 昭和57年(1982) 広島県が備後国府跡の確認調査を開始。
- 昭和58年(1983) 鞆飼町で国府時代の建物が見つかる。
- 昭和59年(1984) ツジ地区の調査を開始。大型建物跡を発見。
- 昭和60年(1985) ツジ地区・砂山地区で井戸や倉庫跡を発見。

【国府が府中市に所在していたことが確かなものに】

- 昭和61年(1986) 出口町で国府時代の建物跡や墨書土器・緑釉陶器などを発見。

【市街地北部に国府のまちが広がっていたことが推定される】

- 平成2年(1990) 国府の中心施設「国庁」発見のため、府中市による備後国府跡の確認調査を開始。
- 平成3年(1991) 金龍寺東地区で石積基壇上に建つ大型の礎石建物跡を発見。県の調査は終了。
- 平成8年(1996) 金龍寺東地区が府中市指定史跡となる。
- 平成16年(2004) 国府プロジェクト策定。
- 平成17年(2005) ツジ地区で奈良三彩の小つぼを発見。
- 平成22年(2010) ツジ地区で銅印「賀友私印」を発見。
- 平成24年(2012) ツジ地区で一辺約110mの区画をもった施設の存在が明らかに。

【これまでの調査成果をまとめた総括報告書の作成へ】

- 平成28年(2016) 総括報告書「備後国府関連遺跡1」刊行。

【備後国府跡であることが学術的に明らかになった】

- 平成28年10月3日 備後国府跡が国史跡に指定。



教育長 平谷昭彦



府中市歴史民俗資料館 (土生町)

明治時代に建築された建物は、洋風と和風が混ざった擬洋風建築で、築114年が経過しています。当時は、旧芦品郡役所庁舎として使用されていました。明治時代の郡役所は、全国で20棟ほどしか残っておらず、貴重な建物の1つです。

館内には、備後国府跡からの出土品を多数展示しており、府中の歴史を知ることができます。県内外の展示会に貸し出しすることも多くあります。奈良～平安時代の復元衣装も展示しており、体験用の衣装は、無料で着ることができます。

国司や女官になりきって、国府の時代を体験してみませんか。

開館時間 10時～17時
休館日 年末年始・祝日を除く月曜日



伝吉田寺跡出土のきまるのきらがら 軒丸・軒平瓦

国史跡指定場所

伝吉田寺跡 (元町)

金龍寺東地区の西隣にある古代寺院跡で、国府の中心部に近接することから、奈良時代以降は国府の宗教的機能を有した寺院であったと考えられています。

調査では、塔と講堂の基壇跡が確認され、塔基壇の大きさは一辺14.5mで、五重塔が建っていたと考えられます。都で真かれた瓦に似た、藤原宮や平城宮式と呼ばれる美しい軒瓦が出土しています。



府中市長 戸成義則

説明看板あり

ツジ地区 (元町)

ツジ地区は、史跡指定地の1つです。

約110m四方の溝で区画された施設の内外に、大型の建物が規格性を持って整然と配置されており、国府の重要施設であったとみられ、都から派遣された国司が住んでいた国司館の跡ではないかと考えられています。

多量の国内産・中国産の高級陶器・磁器の他、国司がいたことを示すものとして、文書行政に必要な硯、役人が身につけていたベルトの飾り、文字が読めるものとしては県内唯一の古代の銅印なども出土しています。